

はじめに 「ルール」があなたの会社の未来を決める！

「私は『ルール』なんて大嫌いだね。行動が制限されて、自由がなくなると、正直、ストレスを感じるよ」

その社長は、ピシヤリと言いました。

あなたは「ルール」と聞くと、どんなイメージを持ちますか？

「不自由」、「束縛」、「窮屈」・・・この社長と同じようにマイナスのイメージを持っている方がほとんどではないでしょうか？

しかし、これはある意味、当たり前のことなのです。なぜなら、私たちは、この世に生まれてきてから、様々な「ルール」に縛られて生きてきたからです。

学校で「廊下は走っちゃいけません！」と先生に怒られましたか？

会社で「出退社時にはタイムカードを押すように！」と上司から指導を受けませんでしたか？

家庭でも「風呂掃除とゴミ捨ては、あなたの担当！」と奥さんに言われていませんか？
このように、私たちの生活には「ルール」があふれかえっています。

あなたも、正直、「ルール」なんて面倒で守りたくない！と煙たく思ったことは一度や二度ではないはずです。

ところが、一方で、「ルール」なんてこの世からなくなってしまえばいいのに、とまでは思わないでしょう。それは、「ルール」がないと社会の秩序が保てなくなり、とんでもない事態を引き起こすことも容易に想像できるからです。

もしこの世から「ルール」がなくなってしまうたら、まともに買物さえできません。お金という紙切れで、高価な宝石や自動車が手に入るのも「ルール」があつてこそその話なのです。

結果として、私たちは「ルール」に対して「あまりあつてほしくないけれど、ないと困るもの」という奥歯に物が挟まったようなモヤモヤしたイメージを持つことになってしまいます。

そして、あなたの会社もそうした「ルール」の下で動いています。

しかし、残念ながら「ルール」と上手に付き合うことができてきている起業家・経営者はそれほど多くありません。さらには、「ルール」を活用しきれずに、部下のマネジメントで日々、悩んでいるリーダーも大勢いるのです。

何も考えずに資本金を決めて会社を作ってしまった結果、何百万円もの税金を払うことになってしまったWEB制作会社のA社長

管理能力を期待して入社させたマネージャーが期待はずれだったにもかかわらず、高い人件費を出して雇い続けなければならない広告会社のB社長

残業代を含めた年俸制で雇用したはずが、後になって2年分の残業代を何千万円も払うことになってしまった運送会社のC社長

やる気の見えない部下を奮起させようと試行錯誤を繰り返しているにもかかわらず、部

署の売上が下がり続けてしまっている建設会社のD課長

私は、人事コンサルタント、そして、行政書士・社会保険労務士という仕事柄、数多くの会社を見てきましたが、これらの失敗は、ほんの一例に過ぎません。

逆に、「起業」から「企業」へと短期間に会社を急速に成長させることに成功する社長やマネジメントに長けたリーダーもいます。これらの違いは、「ルール」と上手に付き合うことができたかどうか、から生じています。実は、そんな些細なことがあなたの会社やチームの未来を劇的に変えるのです。

先ほどの不幸な失敗が引き起こされてしまった原因の1つは、法律という「ルール」を社長、部長、課長などのリーダーが知らなかったことです。法律は、社会における最低限の「ルール」であり、いわば、スタートラインです。それを知らないリーダーは、スタートラインよりはるか後方から長い距離をゴールに向かって走らなければなりません。

もう1つの原因は、リーダーが、自分の会社や管理するチームに合った「ルール」を作れていなかったことです。私たちは「ルール」を作ることが苦手です。それは、「ルー

ル」を守ることは教えてもらっても、「ルール」を作ることを教えてもらえない機会が少なからずです。ですから、ほとんどのリーダーが「ルール」を作ることに慣れていません。

そこで、本書は次の3つのことを目的にしています。

- ①「ルール」の意味・効果を知る（第1章）
- ② あなたの会社とチームに合った「ルール」の作り方を知る（第2～5章）
- ③ その「ルール」を活用し、あなたの会社を成長させる（第6章）

つまり、最低ラインである単なる「法律」の枠を超えて、あなたの会社やチームに合った「ルール」を作り、会社とチームを成長させるためには具体的にどうしたらよいか、というところにまで踏み込んだ内容となっています。

本書を読み終える頃には、あなたの「ルール」に対するイメージは変わり、「ルール」を作り上げ、活用することの楽しさを感じてもらえているはずです。

本書が「ルール」と共に、あなたの会社とチームの未来を作り上げる一助となれば幸いです。